

## 2019年度 幼児教育学科 FD・SD研修会 記録

日時：2019年11月19日（火）14：30～15：40

会場：短大棟2階会議室

司会：村上 記録：山田

<テーマ> 前回のアセスメントを踏まえた初年次教育や次年度に向けたカリキュラム体系をカリキュラムマップとともにCPなどを検証する。

### 1. 学科長挨拶

今年度は学修成果の可視化に取り組んでいるが、今回は、前回の非常勤・専任の合同会議で行ったディプロマ・ポリシーについてのアセスメントを踏まえて、まず、森田先生が初年次教育について前期授業評価も参考にしながら問題点を挙げてそれについて全員で検証し、次に村上先生が次年度のカリキュラムについて説明し、カリキュラムマップも合わせて見ながらカリキュラムポリシーに合致しているかどうかを全員で検証したいと思う。活発な協議をお願いしたい。

### 2. 前回のアセスメントを踏まえた初年次教育

◇昨年の初年次教育を振り返り考える

- ・主体的な学びになっているか？
  - ・学生の意識は馴れ合いになっていないか？
- これらを踏まえて



- ・クラスの枠を取り払って混合クラスとして初年児教育(Kinjo ベーシック)を行う。
- ・担任ではない担当者(2年生担任)や1年担任のローテーションで行う。 など

教務部より

- ・建学の精神、理念、学長の考え、情報リテラシーを入れて考えてほしい。
- ・今年度は学外活動に前期・後期ともに2回以上参加することによって、成果は出ているような気がする。
- ・自分で調べる力や習慣を身につけさせて2年生につながるようにしていかなければいけない。

◇「基礎教養」についてのアセスメント

- ・昨年前期授業評価から検証すると、今年度前期の「基礎教養」の評価は下がってきている。授業評価だけで図ることはできないが、我々教員と学生の思いに開きはないか、つまり、教員の自己満足になっていないかを、常に考えていく必要がある。
- ・『学びの発見』というものを、学生が理解しているのか、学び方を学ぶということが理解できているのかを、検証する必要がある。
- ・授業において“ねらい”をしっかりと伝える!!ということを念頭に置くことが大切ではないか。15コマを90分で1つずつ終えていくことを、学生たちがどこまでやっているかがわかるようにすること！を考えていく。
- ・ねらいを理解することが大切 ⇒ 達成確認をすること
- ・振り返りは、書かせるだけでなく発表があるとよいのではないか。
- ・担任が担当する日と担任以外が担当する日を設定するのもよいのではないか。
- ・主体的な学びになっているのかを確認していく。
- ・初年次教育のマップを作成し、今していることが理解できるようにすることも必要ではないか。
- ・もう少し具体的に示していくことが大切。

・次の見通しを持っていくことの大切さを示してあげることも大切。

・学生同士のマンネリ化もある。

(教員がローテーションしたり、学生をクラス単位ではなくばらしていくのもよいのではないか。)

・さまざまな環境を整えていくことも必要。

・継続していくことで変化していく。

繋げていくような援助も必要 → どう繋げていくかを検討していく

・見通し=学習成果と考え、将来的に身につくことを明確にしていく。

◇来年度から「情報リテラシー」を一コマしっかりと入れる。

専門性が高いものであるから、若月先生にお願いしてみるのはいかがでしょうか？(ビジネスは、若月先生)

◇次年度に向けて検証していくこと

学修アンケート調査の見直し

・補足資料も必要

・一つ一つ確認していくことも大切

・アンケート時期によっても変容する

### 3. 次年度カリキュラムマップからカリキュラムポリシーを検証(幼児教育学科の教育体系資料参照)

○カリキュラムポリシーの編成

(3) 地域との関わりを深め、地域の子育て支援に役立つ創造性と課題解決能力を育成する。

⇒ 課外活動・特化活動の評価をまとめて残しておく 継続してやり続ける

(4) 専門性を高める<KINJO ベーシック>を展開し、コミュニケーション能力、研究心、協働する力の向上に努める。

⇒ 高校生からも認知されているものであり、更に内容を見直し継続していく

(5) 少人数教育により、学生の特質に応じたきめ細やかな指導を行う。

⇒ クラス単位の授業を重視していく

(6) 学修の過程を含めた成果全体を把握し、成績評価の方法・基準に基づき、適切に評価する。

⇒ 面談時に使用する学習評価シートを活用していく…金城キャリアカルテ

入学後に、やる気を向上させるものを今後考えていく必要がある。

\*例えば、英語やパソコンなど、入学前から力のある学生には、習熟度を増していくために特別の学べる環境を整えてあげ、成績上位学生を更に高めていくことを考えていくことが必要である。

\*やる気のある学生を大事にしていきたい。

\*教育は、すぐに成果がでるわけではない。だからこそ、一つ一つの授業を大切に理解できるよう明確に知らせていく必要がある。

以上のことを、教員一人ひとりが自覚し、来年度に繋げて質の高い保育者(社会人)を育てていく。

